

5 - 3 東海・南関東地域における地震の震源分布 (1963年1月～1983年10月)

Hypocentral Distribution in the Tokai and Southern Kanto Districts
(January, 1963 - October, 1983)

気象庁地震予知情報課
Earthquake Prediction Information Division
Japan Meteorological Agency

1963年1月から1983年10月までに地震月報に記載された東海・南関東地域の地震について震源再計算を行なった。再計算にあたっては、東海地域の地震に対する各観測点の(O-C)を参考にした観測点補正を与えて震源決定精度の向上を図った。

第1図は、再決定された地震約5600個のうちで比較的精度の良いもの(データ数が10個以上で緯度・経度の誤差がそれぞれ2'以内)約3400個の震央分布である。

第2図は、第1図に対する幅30'の南北断面(A-A'~H-H')及び東西断面(1-1'~6-6')である。この図のC-C'~H-H'断面で、南方の地震が南へ向って深くなる傾向が見られるが、これは地震が観測網から遠く離れたために生ずる系統的な震源計算の誤差によるものである。

これらの図から見られる同地域の地震活動の特徴を下に列記する。

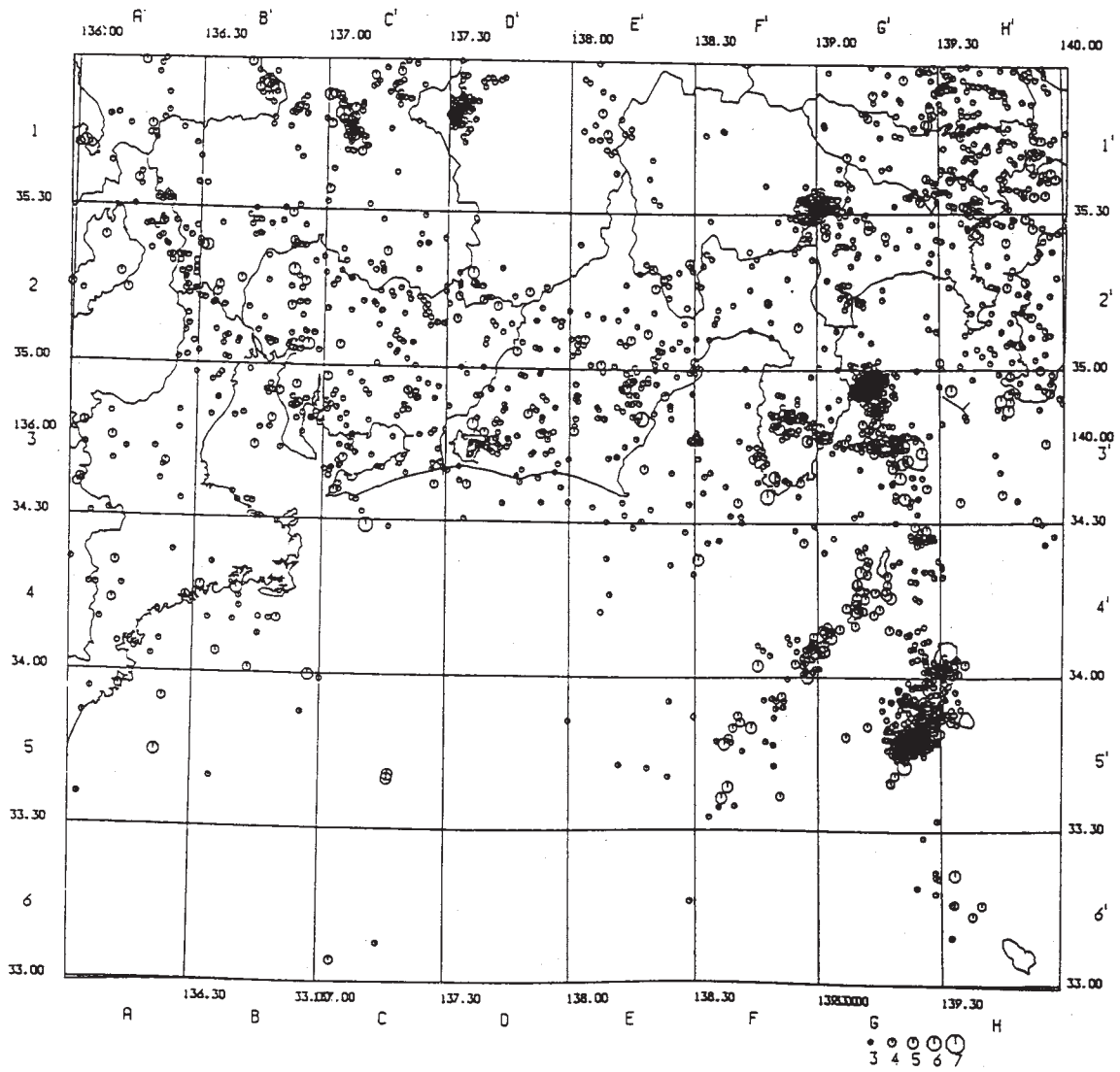
(1) 静岡県中西部から愛知県全域にかけて地震活動は活発であるが、震央分布はほぼ一様で、震源の集中は見られない。この特徴は周辺域の地震活動の特徴と全く対照的である。

(2)(1)で述べた地域の地震には二種類あることがわかる。すなわち、(i)震源の深さが0~20 kmの極浅発地震と、(ii)震源の深さが20~70 kmの浅発地震である。(ii)の地震は、北に向ってゆるやかに深くなると同時に東に向って浅くなり、駿河湾付近で(i)の地震と区別できなくなる。

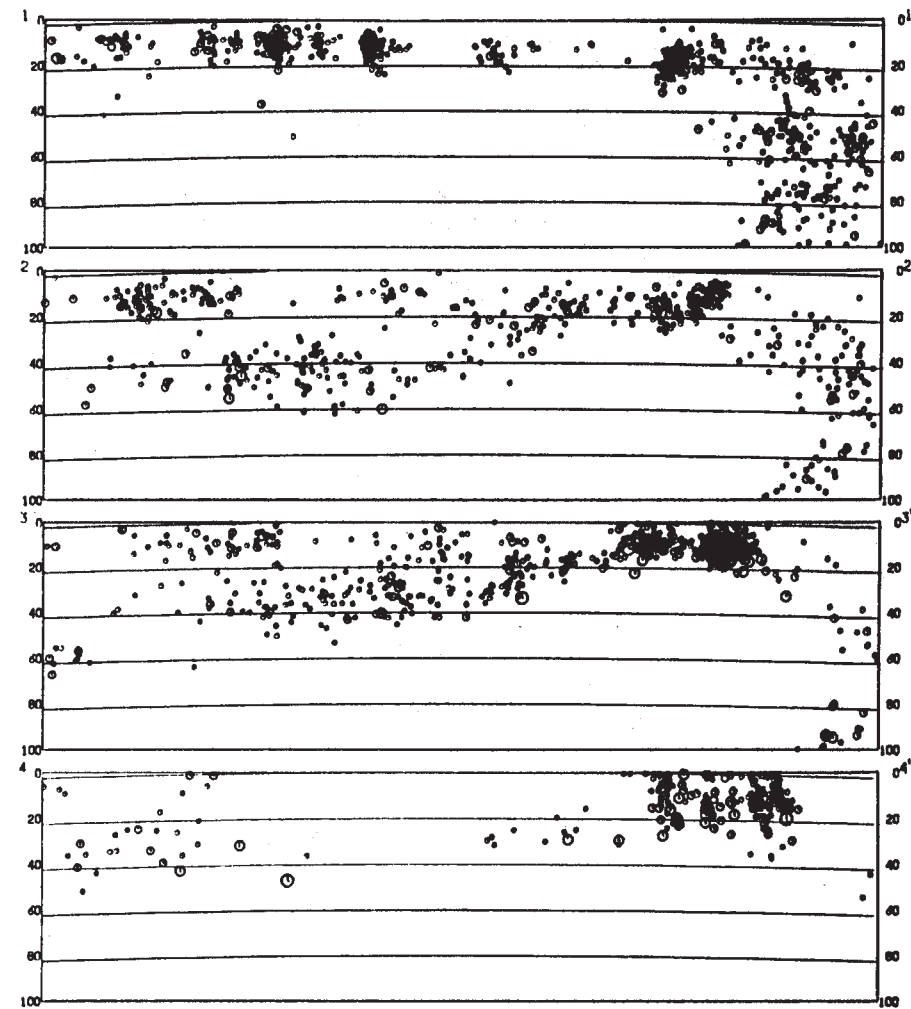
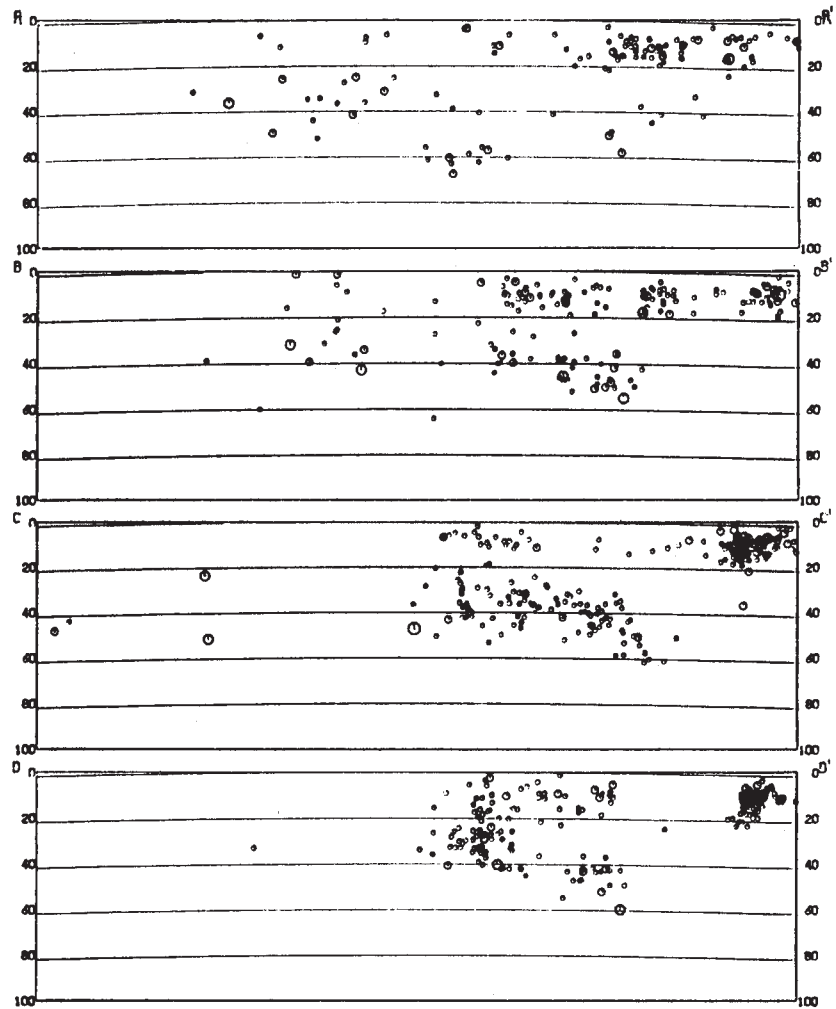
(3) 伊豆半島北部から山梨県東部にかけての浅発地震(震源の深さが0 km~30 km)についても、ごくゆるやかに北に向って深くなる傾向が見られる。

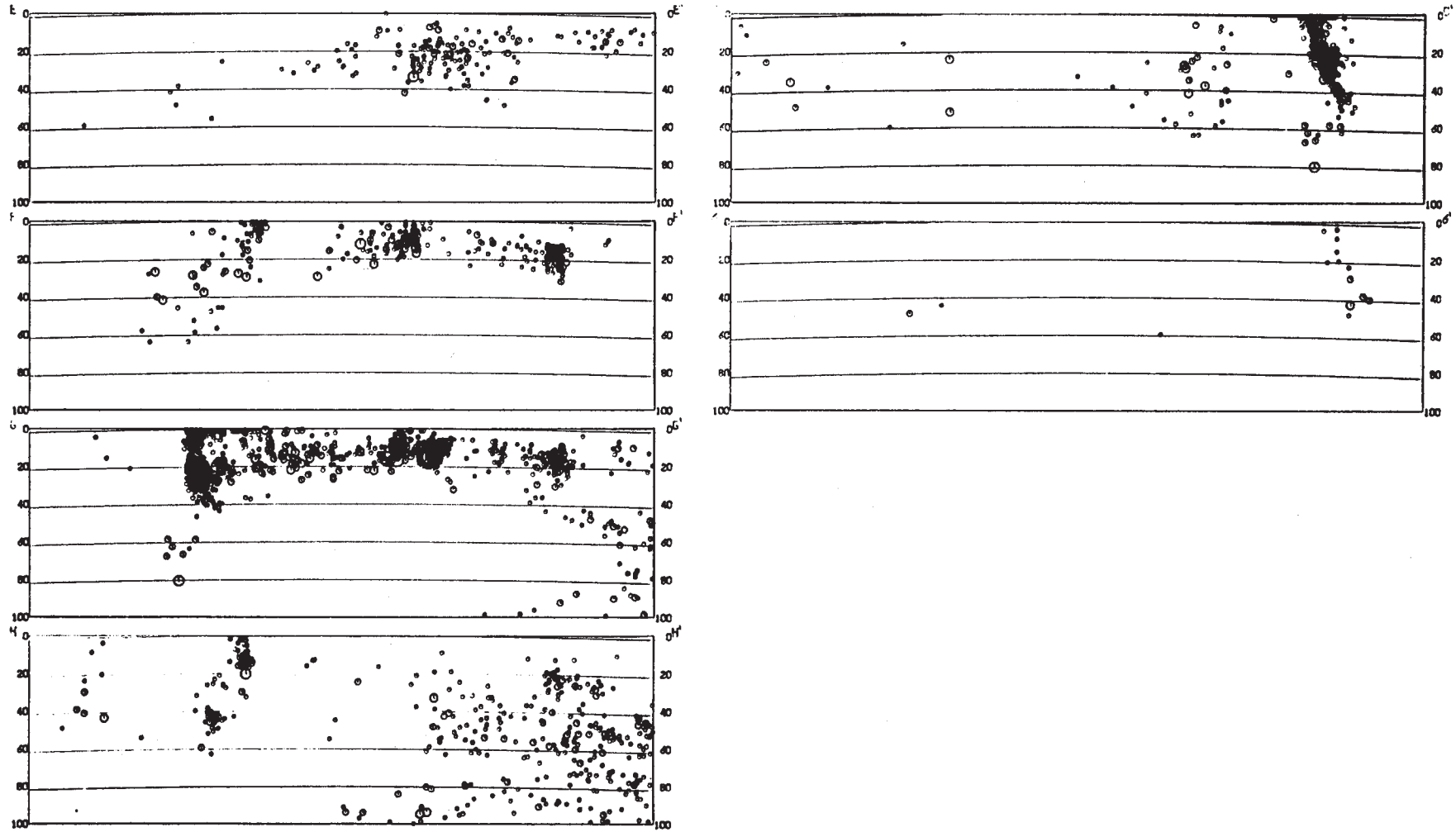
(4) 駿河湾奥及び遠洲灘の地震活動度は低い。

(5) 三重県付近の地震は西に向って深くなる傾向が見られる。 (西出則武)



第1図 1963年1月から1983年10月までに東海・南関東地域に発生した地震の震央分布
 Fig. 1 Distribution of epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts for the period from January, 1963 to October, 1983.





第2図 1963年1月から1983年10月までに東海・南関東地域に発生した地震の震源の深さ分布の南北断面（A - A' ~ H - H'）と東西断面（1 - 1' ~ 6 - 6'）

Fig. 2 Distribution of hypocenters in the Tokai and Southern Kanto Districts for the period from January, 1963 to October, 1983, for the vertical cross sectional profile of earthquakes shown in Fig. 1 along N-S direction (A - A', ... H - H') and along E - W direction (1 - 1', ... 6 - 6') shown in Fig. 1.